

インタビュー

新型コロナウイルス禍が続く中、多くの企業が影響を受け、さまざまな模索が続いている。このコロナ禍をいかに乗り越えていくか、人を大切にする経営で知られるATグループの堀切勇真社長に聞いた。ATグループは収集運搬業を行うアドバンテック・レヒューズ(前橋市)と三協興産(川崎市)、キヨフミ産研(山形市)などからなり多様な廃棄物処理・リサイクル事業を手掛けている。

—コロナ禍の影響が、セーシを送るとも大きく、どのような対応を行っているか。う国の給付金に先んじ堀切 まず、会社を経営する者として、社員として全社員に10万円に向け「皆さんの生活を守ります」と宣言したのが、コロナウイルス禍の収束が簡単で

コロナ禍で独自の給付金

ATグループ 堀切勇真社長に聞く



はなく、長引く可能性が高いと考えたため。危機と言っても良い。当社理念は「社員とその家族の幸せと豊かさ」を追求すること。ATグループの財産は社員全員のものであり、こうい時こそ、社員が安心して生活するために使わなければならぬ。ATグループは、営業を

堀切 そもそも企業の内留保とはこのような時のためにある。それを形にしたいだけだ。いい時も調子に乗らず身の丈に合った経営を進めているため、財務基盤はしっかり整えていた。このコロナ禍は

人間、日々仕事をし、その常に対価として正當な報酬を得るとい

堀切 日頃から「良い時がいつまでも続くわけではない」と意識して経営を行うことが重

もあって、大事な準備と考える人が、日々仕事をし、その常に対価として正當な報酬を得るとい

要。有事の際のために「蓄える」というのは、大事な準備と考える人が、日々仕事をし、その常に対価として正當な報酬を得るとい

を大切にしたい。それにわれわれの事業は困った時にこそ必要とされる。その社会的使命を全うするためにも、今後感染予防に最大限注意を払い、営業を続けていく。